

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

大教会の神殿の脇にある「記念祭まであと〇〇日」と記された看板を毎日見ながら、まだ一年以上あるな、まだ三桁もあると、心の中でどこか安心(油断かもしれない)をしていたら、あつという間に時が過ぎ、四月一日時点で残り「51日」を示しています。三年前の秋に記念祭の活動方針が打ち出され、半年も絶たずして「コロナ禍」に突入しました。その感染状況も、「この頃までには落ち着いてるだろう…」という思いを何度も繰り返し、結局もう記念祭を迎えようとする現在でも、芳しいとは言えない状況であります。

「コロナを乗り越えよう！」的なよく耳にするスローガンも、どこか耳に馴染んでしまったようにさえ感じます。

振り返ると、このコロナ禍で、人間関係の変化や生活様式の変容を余儀なくされ、様々な場面で不安や恐れ、迷い、葛藤、悲しみなど、心を揉むことが大なり小なり皆さんあったことだと思います。親神様から全人類にお見せいただいた、この大きなメッセージに対して、『どれだけ陽気ぐらしに近づけましたか?』と私自身が問われると、まだまだ自信をもって返答ができそう

にないのが今の正直な心情です。そうこうしてうちに、いつの間にか冬が去り、桜の見頃となりました。繁藤でも、「ふきのとう」から始まる山菜が採れる季節がやってきました。そうやって季節を感じるたび、繁藤は天理教で一番田舎にある大教会だけでなく、視点を変えると、花鳥風月を味わえる素敵な場所だなぁとしみじみ感じます。しかしそんな環境でも、成人の鈍い私なんかは、つい目の前のことで一杯になって、ジタバタもがきながら毎を送り、気づいたらあつという間に月日が流れてしまったと反省することばかりです。そんなとき、ふと立ち止まってみると、この「月日が流れる」という表現の通り、まさに川の流れるように月日親神様は絶え間なく、そして当然のごとく火水風のご守護をくださっていることに気づきます。

大恩忘れて小恩送るような事ではならんで。(明治34年2月4日)

というおさしづががあります。われわれ人間は普段、いろんな方のお世話になって、扶け合いながら生きています。そして、周りの人からもらった恩に対して感謝し、返礼をすること

が大切であります。人間、そういうことには気がつかいませうが、当たり前にあることはどうでしょうか。常に心臓が動くこと、東から太陽が昇ること、季節が巡ること…そんなことには意識を向けることすらしないものです。親神様から身体をお借りしている恩、十全のご守護をいただいている恩、親神様のふところ住まいをしている恩、そういう「当たり前」と見過ごしがちな「大恩」を忘れてはいけません。教えてくださっているのが、このおさしづです。日々の生活の中で、ときには負の気持ち心が覆いかぶさってしまふときもあるかもしれません。そんなときでも、そんなときこそ、親神様の大恩に思いを致し、朝に夕に手を合わせることを欠かさないように通らせていただきたいと思います。

さて、あと51日後に迎える記念祭ならびに奉告祭。親神様の大恩はもちろんで、百三十年分の感謝を込めて、共に勇んで勤めさせていただきます。

立教百八十五年四月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【主教百八十五年二月月次祭 祭式文】

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様は、陽氣くらしを見て共に楽しみたいとの思召から、この世、人間をお創りください、旬刻限の到来と共に、教祖をやしんとしてこの世の表にお現れになり、この最後の御教えをお啓き下さり、成人の道を恙なくお連れ通り下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない極みでございます。

去る二月二十六日に教祖の御前にて、繁藤大教会七代会長の御許しをいただきました。繁藤に繋がる先人達がおげくださったこの道の上に、親孝行の信念、御恩報しの心をしっかりと受け継ぎ、たすけ一条の歩みを進めて参りたいと存じます。世界には、新型コロナウイルス感染症による様々な影響が続く中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、福島県沖の地震災害等、不安や恐怖、悲しみが渦巻く、動乱の様相をお見せいただいております。子供可愛い一条の親心から、親神様にお見せいただくたびたびのお仕込みに対し、私共はその思召がどこにあるのかを各々が我が事として深く思案しながら、ひながたに照らして心の向きを正しつ、成人の歩みを進めさせていただきます。そんな中にも、日夜をわかつた、妙なる十全の守護をもつて、お守りくださっている大恩を忘れることなく、ひのきしんに励み、人だすけ、御恩報しのつとめを実行させていただきます。

今日の吉き日は、この繁藤大教会に御許しをいただいております、月々の御祭日でございますので、只今からおつとめ奉仕者一同心を一つにあわせ、陽氣に座りつとめてをどりをつとめて、主教百八十五年三月の月次祭を執り行わせていただきます。御前には、今日を樂しみに寄り集ったおつとめ奉仕者はじめ、よぶべく信者達が、鳴物の調べに合わせ、おうたを唱和し、日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げ、尚一層の成人を垂さう状を御覧くださいます、親神様にもお勇みいただきますよう、お願い申し上げます。

又、残り二ヶ月と迫った五百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭に向けて、一手一つに心を結び、この旬を輝かせることができるよう、精一杯御用にとめさせていただきます。決心でございます。何卒、この心定めをお受取りいただき、陽氣ふしんの道具としてお使いいただき、世界一列兄弟、神入和樂の陽氣づくめの世の状へとお導きくださいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十五年 三月月次祭祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	扨者	扨者	男		女		地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話	
						座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半	空閑一将												
大教会長	坂本久徳	佐藤成彦	佐々木恵	田村久徳	宮田孝道	前会長長	大教会長	前会長長	黒石伸子	坂本久徳	宇山基紀	宮田孝道	為田紀久男	藤田憲明	村上英士	川田節夫	田村久徳	藤田洋美	空閑さとの	佐藤順子	大教会長
伊藤正福	秋月真一郎	立花真一郎	佐々木恵	佐藤成彦	空閑慶吾	伊藤正福	宮田孝道	宮田孝道	坂本喜子	田村睦美	宮田孝道	宮田孝道	伊藤正福	藤田誠	秋月真一郎	空閑慶吾	佐々木恵	安岡美和子	村上美栄子	佐藤文代	伊藤正福
伊藤正福	秋月真一郎	立花真一郎	佐々木恵	佐藤成彦	空閑慶吾	伊藤正福	宮田孝道	宮田孝道	坂本喜子	田村睦美	宮田孝道	宮田孝道	伊藤正福	藤田誠	秋月真一郎	空閑慶吾	佐々木恵	安岡美和子	村上美栄子	佐藤文代	伊藤正福

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭

令和四年五月二十二日執行

【神殿講話】

(四月) 富松 幹 禎 先生

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(四月) 為田 基 紀

【教会長神殿当番】

(四月) 角野・城 幡・新居浜

(五月) 城 攝・来 見・高 阪

【詰所教養掛】

(四月) 渡 辺 道 仁

(五月) 未 定

【詰所事務掛】

(四月) 誕生祭・藤 田 一 憲

月次祭・黒 河 明 大

(五月) 高 橋 道 則

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん

四月 十七 日 ～ 十九 日 (未 定)

四月 二十五 日 ～ 二十六 日 (未 定)

○本部食堂ひのきしん

七月 一 日 ～ 十五 日

紋 膽 分 教 会

【五季づとめ】

四月は五季づとめの月でございますので、左記の通り各上級を通してお納め下さいますようお願い申し上げます。

一、	五季づとめ	三五〇〇円
一、	特別費	二五〇〇円
合 計		六〇〇〇円

【登 用】

三月月次祭において、左記の方々が登場されました。

《役 員》

藤田一憲(城下)・安部道郎(馬関)・空閑一将(西田川)

《准 員》

筒井雅夫(繁藤カリ)・前田豊(種孝)・田村省悟(實彌原)

《青 年》

藤田 誠(児島郷)・筒井陽喜(繁藤カリ)

立花孝一(南田川)・藤田善典(城下)

【婦人会・少年会・青年会各会費納入のお願い】

令和四年度の各会費の納入を、左記の通りお願い致します。

・ 婦人会	一名称	六〇〇〇円
・ 少年会	一名称	六〇〇〇円
・ 青年会	一名称	六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取って下さい。やむを得ず詰所事務所にお預けになる場合は、詰所にて預かり証しか出せませんのでご留意下さい。

【記念祭について】

先月調査いたしました帰参見込みをふまえて帰参者受け入れの準備を進めさせて頂いておりますが、現時点において左記の点が決まっております。

記

・帰参人数 制限を設けない

※四月末の状況によっては制限をかける可能性有り

・参拝場所 密を防ぐ為に神殿内の参拝は、教会長・教会長

配偶者・在籍者のみとします。

※教会長は必ずおつとめ着、配偶者はハッピを着用その他の参拝の皆様には、神殿前のテント席、信者会館一階会議室、三階大広間、食堂、集会場より参拝して頂きます。(三階大広間、食堂、集会場には映像を流します)

・食事

記念祭終了後にお弁当を配布します。

喫食場所は、前に記した参拝場所及び神殿(時間制限あり)、信者会館の各部屋となりますが、密を避ける為に高知県内など近隣の方にはできるだけお持ち帰り下さるようお願い致します。

・宿泊

今後の帰参状況をみて調整していきます。

※他の詳細については逐次ご連絡いたしますが、各教会においては、繁藤に繋がる皆様の心が記念祭に向かうようお声がけの程、よろしくお願い致します。

【よふぼく・信者情報の確認リスト提出のお願い】

既に各教会へ配布致しました確認リストは、「よふぼく・信者情報の現状確認についてお願い」をご参照の上、転籍・転住・改姓などの変更箇所を訂正いただき、至急大教会までご提出下さいますようお願い致します。

【本部月次祭昇殿参拝について】

本部月次祭には、現在、各大教会に割り当てられた人数のみ昇殿参拝をさせて頂く事ができます。今月まで繁藤としての割り当ては各月二十名です。部内教会ごとに割り当てはいたしませんので、昇殿参拝を希望される方は大教会坂本久徳(携帯080-3920-1817)までご連絡下さい。尚、先着二十名とさせて頂きますが、二十名を超える場合は、今までの状況を考慮して調整させて頂きます。

【婦人会】

○「天理教婦人会第四百四回総会」

四月十九日・本部中庭での婦人会総会は、各支部の代表者のみ参加で開催されます。

○「みちのだいおはなし会」

各教会にはチラシを同封しております。ご参照下さい。

【をびや】 二件



改修した集会場



壁紙の張り直し

立教百八十五年活動方針

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭に向けて

《信仰の元一日に立ち返ろう》

活動方針

(三年間を通じ)

『人々のたすかりを願ひ、
陽気ぐらしの輪を広げよう』

実働項目

- おつとめ
 - ・朝夕に神様に手をあわせよう
- にをいがけ・おたすけ
 - ・悩める人に耳を傾け、寄り添う
- 陽気ぐらしの実践
 - ・親孝行、夫婦仲良く、陽気ぐらし

三年千日活動

- ・本部月次祭に参拝し、おぢばの理を戴こう
- ・毎月二十六日朝、本部回廊拭きひのきしんの実施
- ・ブロック活動
 - にをいがけ、ひのきしん、バザー、物々交換、お楽しみ行事を通じて、友だちを誘い参加してもらおう